

私大図協・東・研・2009-49
2009年10月21日

加盟大学図書館長 殿

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
東京理科大学図書館
館長 宮本 岩男
【公印省略】

2009年度 研究分科会報告大会開催のご案内（案）

貴館におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さてこのたび、標記研究分科会報告大会を下記のとおり開催することになりました。
つきましては、館務ご繁忙のところを誠に恐縮ですが、貴館職員の参加につきましてご高配いただきたくよろしくお願い申し上げます。

なお、参加申込につきましては、お手数ですが、同封参加申込書へ必要事項を記入の上、ファックスにて11月27日（金）までにお申し込みいただきますようお願いいたします。

記

1. 日 時 2009年12月14日（月） 11:00～16:45
15日（火） 10:05～16:45
2. 定 員 各70名
*参加希望者が定員をオーバーした場合、申込順に1名/1大学（各大学1番該当者）とさせていただきます。
3. 会 場 東京理科大学 森戸記念館 地下1階 第1フォーラム
東京都新宿区神楽坂4-2-2
アクセスマップ
<http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>
4. 発表概要（発表日・発表時間）
次頁掲載のとおり。

12月14日(月)

(14A)【理工学研究分科会】(11:10~12:00)

文献ガイダンスで利用可能なプレゼンテーションモデルの研究
(理工系大学図書館のガイダンスをカンタンに実施するために)

(研究発表要旨)

理工系大学図書館で実施するガイダンスで、内容に応じて取り替えて使用できるガイダンスモデルを作成した。電子ジャーナル、データベースのほか、理工系の特殊資料についても作成した。分科会参加大学での実践記録とともにその内容を紹介する。

発表者： 内山 光子(日本大学理工学部図書館(船橋))
平田 さくら(明治大学生田図書館)

(14B)【西洋古版本研究分科会】(13:00~13:50)

2008-2009年度 西洋古版本研究分科会 活動報告

(研究発表要旨)

今期は、西洋古版本に関する書誌学的研究を主眼として活動してきた。今回の発表では、ジョナサン・スウィフト(Jonathan Swift 1667-1745)の「ガリヴァー旅行記(Gulliver's Travels)」(1726)を取り上げ、その記述書誌を検討した上で、参照MARCとの比較を試みることにする。

発表者： 上田 健一(獨協大学図書館) 齊藤 理香(中央大学図書館)
中島 悠史(文化女子大学図書館)

(14C)【和漢古典籍研究分科会】(13:55~14:45)

和漢古書の情報と補修
~書物の顔から刊年を探る~

(研究発表要旨)

前半は、和漢古典籍の補修・保存についての問題点や疑問点を述べた後、今期例会で行った補修の実習についての報告を行う。後半では、無刊記本の情報の一助として、和装本の表紙の色からある程度の刊年の推測が可能ではないかということ、いくつかの例や先人の研究を基に提言する。

発表者： 沼田 晃佑(身延山大学図書館)

(14D)【図書館運営戦略研究分科会】(15:00~15:50)

2008-2009年度 図書館運営戦略 活動報告

(研究発表要旨)

今期の活動は、まず、話題になっている図書館を見学・意見交換し、各図書館の戦略的運営を目の当たりにした。この中で、図書館でのトラブルの現状を耳にし、危機管理に関する文献を用いて研究したり、危機管理への対策案を作成、そして、一般企業の行っている「クレーム対応セミナー」へ参加し研修してきたのでこれらの活動報告をします。

発表者： 櫻井 友美(国士舘大学附属図書館) 小生方 麻里(麗澤大学図書館)
関口 千登世(城西大学水田記念図書館)

(14E) 【L-ラーニング学習支援システム研究分科会】 (15:55~16:45)

大学図書館員のためのリポジトリからエルラー的 PBL への展開を目指して
(研究発表要旨)

当分科会は、大学図書館職員が自己学習でスキルアップできる学習支援システムの構築を目指している。今期は「大学図書館員のためのリポジトリ」を作成し、公開・運用を開始した。このリポジトリをどの様に学習支援システムとして機能させるかについて検討を重ね、PBL をキーワードとした新しい学習支援のスタイルを提案する。

発表者： 南雲 彰子 (国際大学松下図書・情報センター)
田代 陽子 (日本女子大学図書館) 阿部 潤也 (東京歯科大学図書館)

12月15日 (火)

(15A) 【分類研究分科会】 (10:15~11:05)

日本十進分類法 (NDC) 10 版試案の検討
(研究発表要旨)

日本図書館協会分類委員会が改訂を進めている日本十進分類法 (NDC) 新訂 10 版試案が 2008 年秋より公表されはじめた。当会では現在公表されている 4 つの類 (3 類 社会科学、2 類 歴史・伝記・地理、7 類 芸術、0 類 総記) に対して批評と検証を重ねてきたが、この発表において、そのうちいくつかの重要な部分を指摘する。

発表者： 藤倉 恵一 (文教大学越谷図書館)

(15B) 【逐次刊行物研究分科会】 (11:10~12:00)

電子ジャーナルとその周縁をめぐる研究
- 導入から利用者への発信まで -

(研究発表要旨)

電子ジャーナルはその普及にともない、導入が落ち着いてきた感がありますが、契約や価格の問題、冊子体の購読の継続等については、まだまだ検討の途上にあると思われます。

ここでは、電子ジャーナルの普及状況、導入後の利用者への提供の仕方やサービスの現状、さらに今後の方向性について、調査・研究したことを発表いたします。

発表者： 小室 啓子 (文教大学湘南図書館)
菊地 秀明 (跡見学園女子大学新座図書館)
三上 彰 (桜美林大学図書館)

(15C) 【レファレンス研究分科会】 (13:00~13:50)

大学図書館の学習支援 事例紹介
(研究発表要旨)

近年、大学教育において、グループワークを取り入れた授業形態が増えています。これらの学習形態に適応するために、新しい図書館の在り方のひとつとして米国大学図書館から発信された「ラーニング・コモンズ」が日本の大学図書館でも注目され始めています。施設面だけでなく、「ラーニングアドバイザー」や「ゼミサポート」などのサービス面での充実を図っている大学もあります。各大学において行われている学習支援の事例を紹介いたします。

発表者： 井口 良子 (國學院大學たまプラーザ図書館)
近藤 裕子 (専修大学図書館) 小幡 誉子 (大正大学附属図書館)
藤原 美佳 (駒澤大学図書館) 横田地 妙 (創価大学中央図書館)

(15D) 【情報リテラシー研究分科会】 (13:55~14:45)

「1年次教育における情報リテラシー教育」のモデル作成

(研究発表要旨)

本分科会の研究目標は、現在会員館の大部分で実施している、図書館利用案内と OPAC の操作説明中心の新入生ガイダンスに、1年生で習得してもらいたい情報リテラシー項目を盛り込んだモデル案を作成し、各自の大学でのガイダンスに反映させていくことである。今回は作成したモデル案とそこからわかった課題等について発表を行う。

発表者： 池田 有紀 (横浜商科大学図書館) 樋口 知義 (東洋大学附属図書館)
小海 理恵 (和光大学附属梅根記念図書・情報館)

(15E) 【パブリック・サービス研究分科会】 (15:00~15:50)

2008-2009 年度 パブリック・サービス研究分科会 活動・研究報告

(研究発表要旨)

2008-2009 年度にかけての活動報告と、3 グループに分かれて行ってきた研究の報告を行います。活動報告では、当分科会の概要と毎月の定例会で何を行ってきたかを簡単に報告します。研究報告では、「蔵書評価」、「共同保存図書館」、「SA (スチューデントアシスタント)」の各グループが、研究成果を報告します。

発表者： 瀬戸山雄介 (学習院大学図書館)
清水 滋文 (和光大学附属梅根記念図書・情報館)
伊藤 康子 (女子美術大学図書情報センター)
植苗 翔 (中央大学図書館) 塩瀬 雅博 (女子栄養大学図書館)
内藤 沙織 (学習院大学法学部・経済学部図書センター)
川端 美月 (多摩大学メディア&インフォメーションセンター図書館)

(15F) 【研修分科会 (2009 年度新設)】 (15:55~16:45)

2009 年度 活動報告

(研究発表要旨)

当研修分科会は、研究分科会活動の活性化を図るため、昨今の大学図書館職員が求められる知識や考え方等を供給し、研究分科会参加の準備機能を持つ場として 2009 年度より発足した。今年度会員による年 4 回の活動の成果・感想等の報告を行う

発表者： 当日紹介いたします。

以 上